

国語 (融合問題
現代文)

早稲田大学 文化構想学部 1/5

<総括>

出題数	(一) 現・漢融合問題 (近代文語文を含む) 1題 (二) 現代文 1題 (三) 現・古・漢融合問題 1題	試験時間 90分
-----	---	----------

(一) について。Aは正岡子規を中心にし、文学の西欧化を述べた文章であり、Bは正岡子規自身の文章 (明治期文語文) であった。昨年度までの専門的な文章ではなかったし、選択肢もそれほど紛らわしいものはなかったので、全体として易化したと言えるだろう。
(二) について。昨年度よりは、やや難しい評論が出題され、設問もいくつか解答しづらいものがあった。全体としては、(一) がかなり読みやすくなったので易化したと言えよう。

<本文分析>

大問番号	(一) 融合問題	(二) 現代文
出典 (作者)	A 磯田光一『鹿鳴館の系譜 近代日本文芸史誌』 「「明星」派の水脈—『みだれ髪』の遺産」 (文芸春秋、1983年刊) B 正岡子規「七たび歌よみに与ふる書」 (1898 [明治31]年発表)	藤原辰史「他炊論」 (『ユリイカ』2025年3月号)
頻出度合 ・的中等	Aは著名だが近年の入試ではあまり出題されない筆者である。また、引用されている漢詩の出典は稀。 Bは筆者は著名だが、入試ではあまり出題されない筆者である。	最近の入試では、しばしば出題される筆者である。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約5700字 (A 約4150字・うちAに引用されている漢詩56字、B 約1550字)。 昨年より約550字減。	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約3100字。昨年より約300字増。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
(一)	A 文学論 B 文学論	問一	マーク	やや難	詩の句の意味の問題。故事成語「孟母三遷」の知識があるとよい。直前の句とのつながりに留意する。反語形「何ぞ～を用ゐん」に留意する。
		問二	マーク	標準	傍線部内容説明問題。傍線部の2行前の「女＝ユリ」という内容を踏まえ、傍線部の内容と最も合致するものを選ぶ。
		問三	マーク	標準	傍線部内容説明問題。傍線部と本文の内容に最も合致するものを選ぶ。
		問四	マーク	標準	空欄補充問題。aは後に続く文脈、bは肯定的な意味合いの語句が入る文脈、cは逆に否定的な語句が入る文脈を押さえて決める。
		問五	マーク	標準	傍線部内容説明問題。Bの文の後ろから二つ目の段落冒頭などを踏まえて「具体的」に説明しているホを選ぶ。
		問六	記述	標準	空欄補充問題 (抜き出し型)。「文明開化」のイメージや西洋的な雰囲気詠った子規の句に用いるものとして、Bの末尾にある「洋」の字を「本」・「人」・「犬」に付ける。
		問七	記述	易	空欄補充問題。三つ目のYの3行後に「外国の語も用」というのが子規の考えであるから、三つ目のYの部分は、「用語の区域を広くしないといけない」という二重否定にならなければならないことなどから考える。
		問八	マーク	やや難	内容合致問題。Aにある二つ目の空欄Xの次の段落の末尾とBの最後から二つ目の段落の内容に合致するニを選ぶ。
		問九	マーク	標準	内容合致問題。子規と晶子とに、西洋化という「共通点」があることを述べたAの文章の内容や、最後から二つ目の段落や最終段落末尾に書かれた、「外国の語 (=漢語・洋語)」を用いよ、というBにおける子規の主張と対応しているロを選ぶ。
(二)	食文化論	問十	マーク	やや難	傍線部中の語句の内容を問う問題。ロが紛らわしいが、「富裕層」や「他炊」には「食権力」から逃れられる可能性があると考えられるので、「あらゆる購買層に浸透している」とまでは言えない。よって空欄Iの後に書かれた内容と対応するハを選ぶ。
		問十一	マーク	やや難	文整序の問題。前後の文脈との関係が希薄な内容だが、冒頭に来る文・末尾に来る文を、選択肢を参考に想定しつつ消去法で選ぶ。
		問十二	マーク	易	脱落文挿入問題。「もっつきつめていえば」という脱落文冒頭の表現に着目し、「自炊」の不可能性を述べた箇所後に脱落文を入れる。
		問十三	マーク	標準	傍線部内容説明問題。傍線部直前の「微生物たちの力を借りる」というようなことを無視している人間のあり方に対応するものを選ぶ。
		問十四	マーク	標準	空欄補充問題。傍線部の前の段落の冒頭や3行目の内容と対応するものを選ぶ。
		問十五	マーク	標準	傍線部内容説明問題。傍線部の「信頼とケアが衰微する時代の抵抗」について最もよく説明している選択肢を選ぶ。

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
		問十六	記述	やや難	漢字の書き取り問題。語彙力がないと、書けない漢字がある。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

多様なジャンル、いろいろな文体の文章に慣れ、内容の理解に努めるとともに、設問の要求を見抜く力を身につけなければならない。(一)のように、文章を並列する形の問題では、文章同士に共通する話題やテーマを意識して読んでいこう。今後も漢文や文語文の出題の可能性があるので、古い文体の文章にも触れておきたい。語彙に関する知識も要求されることがあるので、概念語や慣用表現などにも習熟しなければならない。

国語 (融合問題)

早稲田大学 文化構想学部 4/5

<総括>

出題数	(一) 現・漢融合問題 (近代文語文を含む) 1題 (二) 現代文 1題 (三) 現・古・漢融合問題 1題	試験時間 90分
-----	---	----------

昨年度同様、(三) は現古漢融合問題であり、昨年度と同じく、甲の現代文の中に古典からの引用はあるものの、古文・漢文が独立した形で出題された。また、昨年度は二題出題された漢文は一題のみであった。現代文は、昨年度とは異なり、それほど難解なものではなかったし、長文というわけではなかったので、昨年度よりは読みやすかっただろう。

丙の古文は、昨年度と同様に独立して出題された。内容合致、文法の問題が出題された。

乙の漢文も、昨年度と同様に独立して出題された。また、甲・丙の文章にも一部漢文が引用されている。

設間においても現代文・古文・漢文それぞれの正確な読解力が要求される。いずれも付け焼刃的な学習では正解は得られないので、本学部の受験者は、現代文・古文・漢文についての十分な対策が必要である。

<本文分析>

大問番号	(三)	
出典 (作者)	甲 (現代文) 興膳宏『中国名文選』(岩波書店 2008 年刊) 引用古文は『方丈記』、『徒然草』 乙 (漢文) 『孝子伝』 丙 (古文) 『二十四孝』	
頻出度合 ・的中等	甲 (現代文) 入試ではほとんど見られない筆者の文章である。 乙 (漢文) 稀。(2026 年度 スタート学期『漢文文法・句形』第五講は同一の逸話。) 丙 (古文) 稀。	
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・ やや増加 ・増加)	甲 (現代文) 約 3000 字 (昨年より約 150 字増) 甲・丙 (古文、本文・設間の引用部分を含む) 約 710 字 (昨年より約 220 字増) 乙・丙 (漢文) 123 字 (昨年より 139 字減)
難易 前年比較	難易 (易化・ やや易化 ・変化なし・やや難化・難化)	現代文は易化。 古文は易化。 漢文はやや易化。

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
(三)	甲 古典文学論 乙 史話 丙 御伽草子	問十七	マーク	やや易	空欄補充問題。「シカモ」と読む字を選ぶ。[漢文]
		問十八	記述	易	返り点の問題。「夫」と「不」の役割に注意する。[漢文]
		問十九	マーク	やや易	語句の意味を問う。辞書的な意味と合うものはないので、消去法で文脈に最も合致する者を選ぶ。[現代文]
		問二十	マーク	やや易	内容合致 (設問に引用された『徒然草』の文章の内容と合致しないものを選ぶ)。[古文]
		問二十一	マーク	やや難	文学史 (為永春水の作品を選ぶ)。[古文]
		問二十二	マーク	やや難	空欄補充問題。直前の引用文に該当する文体を選ぶ。[現代文・古文・漢文]
		問二十三	マーク	やや難	空欄補充問題。前後関係を確認して使役形を捉える。[漢文]
		問二十四	マーク	標準	内容説明 (乙と丙の内容の違いを正しく説明しているものを二つ選ぶ)。乙は、本文と選択肢の説明を丁寧に対照する。[古文・漢文]
		問二十五	マーク	易	文法 (六箇所ある二重傍線部「り」の中から助動詞「り」と異なるものの数を選ぶ)。[古文]
問二十六	マーク	標準	内容合致問題 (合致するものを二つ選ぶ問題)。ハは甲の再読文字などに言及している第五段落前半の内容と合致する。ホも第五段落と第一段落の内容に合致する。[現代文・古文・漢文]		

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

<p>[現代文] 古典評論や文化論・文学論を中心に、幅広いジャンルの文章に取り組もう。</p> <p>[古文] 基本的な単語・文法・常識・文学史等の知識を正確に習得するとともに、その知識をもとに古文の文章を厳密に読解する学力を養っておくこと。</p> <p>[漢文] 重要単語や基本句形の学習を怠らず、文脈を正確に読み取る力を培うことが大切である。白文、漢詩、文学史、思想史に対する十分な準備もしておくこと。</p>
--